

1 2 3 4 5 3 2 1

A

A

B

B

D

D

A

A

A black and white photograph showing the front view of a white Toyota HiAce van. The van is positioned centrally, facing towards the viewer. It has a large front grille with the Toyota emblem, two round headlights on each side, and a prominent hood. The background is plain and light-colored.

ハイエースの心臓を守る。 ラジエーター交換 完全DIYガイド

プロ依頼7.8万円 vs. DIY 2.5万円。その差額、5万円以上！

その「甘い匂い」、エンジンからの危険信号です。

ラジエーターの故障は、致命的なエンジントラブルに繋がる前に、必ずサインを出します。見逃さないでください。



甘い匂い

冷却水(LLC)が漏れ、エンジン熱で蒸発しているサイン。独特の甘い香りがします。



地面のシミ

駐車場の地面に赤・ピンク・緑色の液体が溜まっていたら、それは冷却水漏れの証拠です。



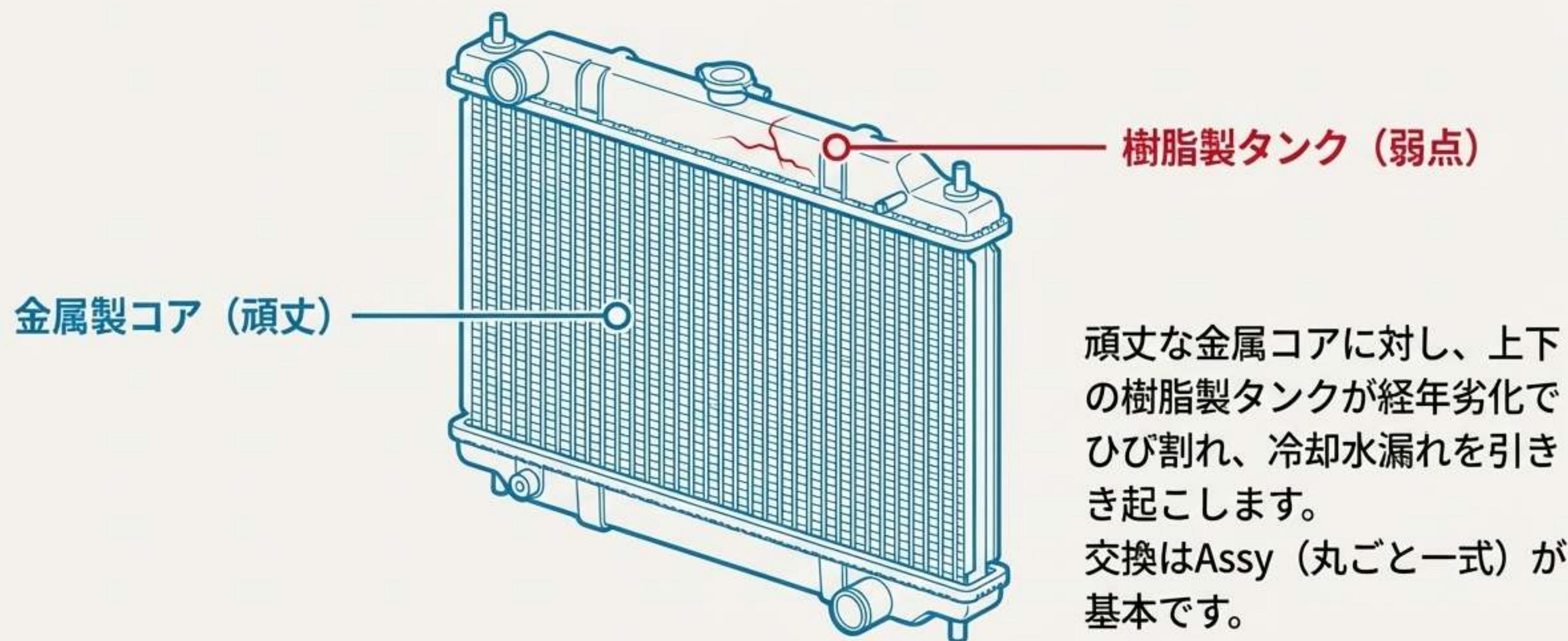
オーバーヒート

水温計の針が「H」を指す。これは最も危険なサインで、エンジン焼き付きのリスクがあります。



なぜ壊れる？ラジエーターの構造と弱点

ラジエーターはエンジンの熱を奪う「熱交換器」。走行風で冷却水を冷やす、車の生命線です。



決断の時：プロに任せるとか、自分で挑むか

プロに依頼 (Professional Service)

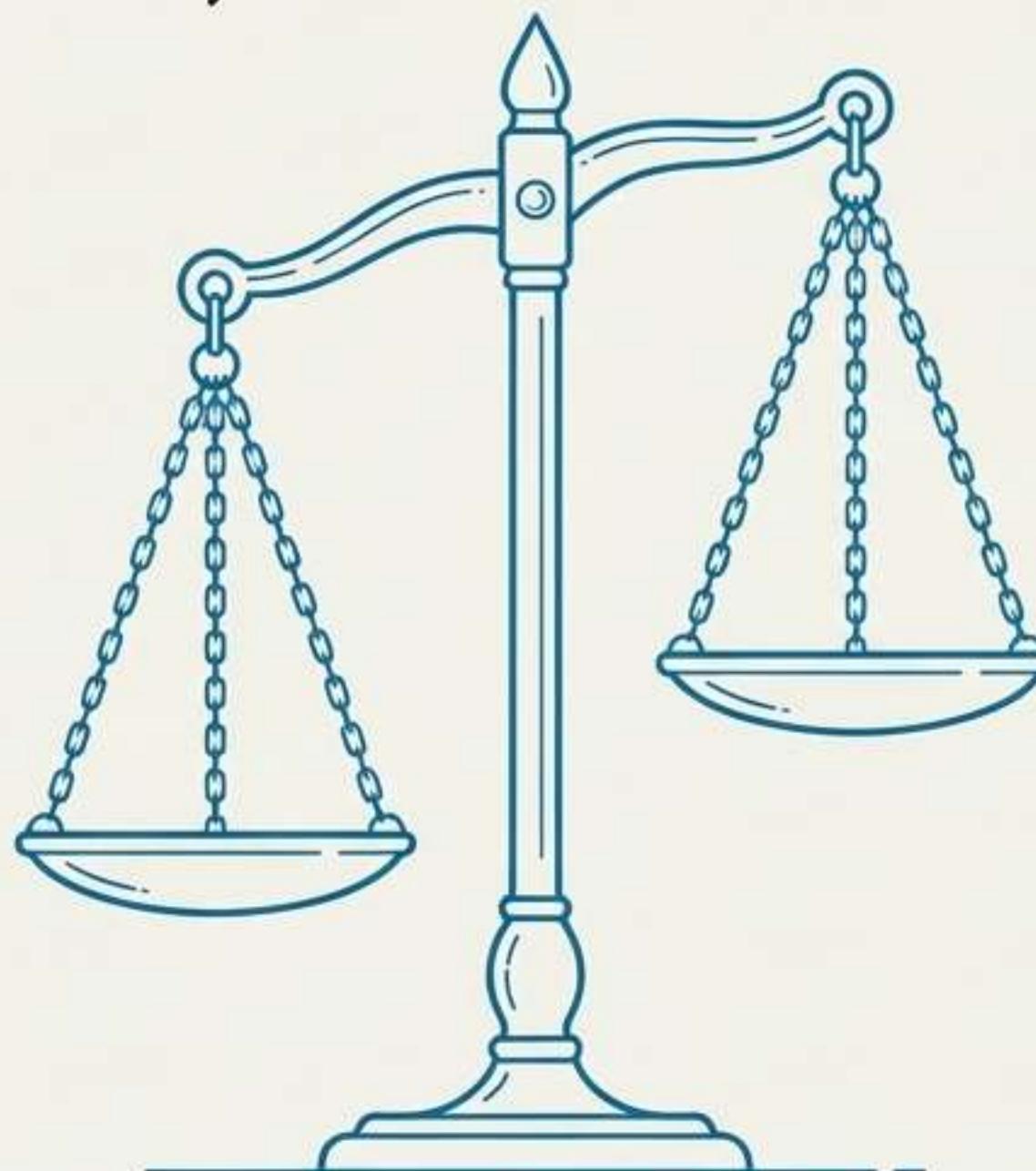
¥78,000

メリット

- (✓) 安心感、確実性、時間の節約

デメリット

- (✗) 高コスト



DIYに挑戦 (Do It Yourself)

約 ¥25,000

(部品代+冷却水)

メリット

- (✓) 5万円以上の節約
愛車への理解が深まる、大きな達成感

デメリット

- (✗) 時間と手間、自己責任

ミッション開始：必要な部品と工具

部品 (Parts)



新品ラジエーター：純正品は高価。性能十分な「社外新品」(KOYO製など)なら1.5万~2.5万円で入手可能。



LLC (冷却水)：トヨタ用スーパーLLC (ピンク色)。リアヒーターまで配管が長いため、4~6リットルと多めに用意。

DIY成功の鍵は「社外新品」の活用。
これだけで数万円のコストを削減できます。

工具 (Tools)



プライヤー/ペンチ：ホースバンドの着脱に必須。



ソケットレンチ：10mmと12mmを主に使用。

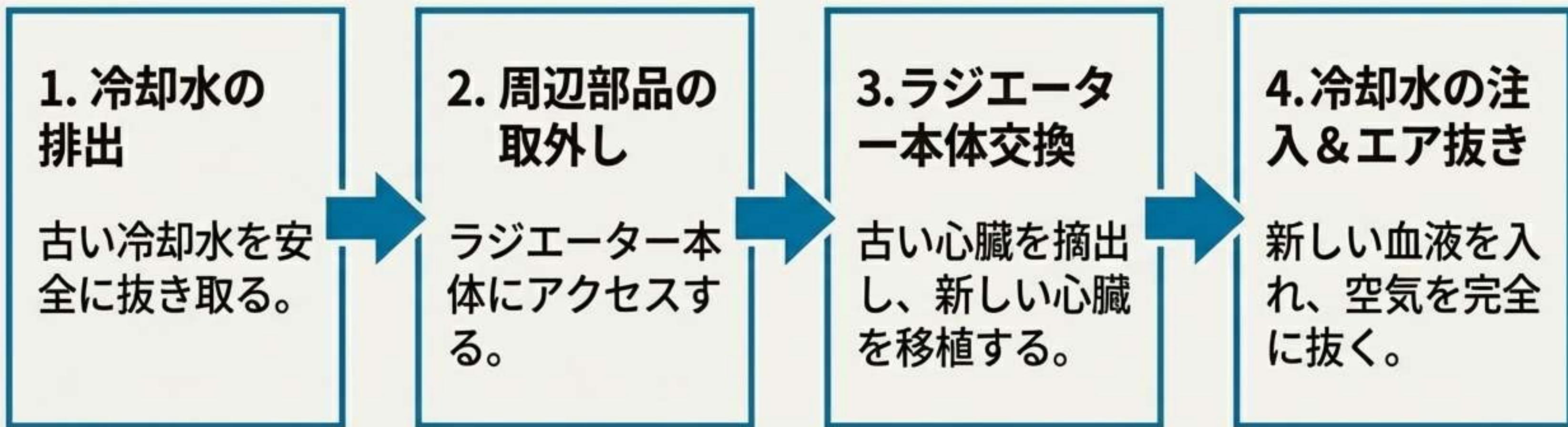


バケツ/受け皿：廃液を受けるために必ず用意。



エア抜き用ファンネル：2Lペットボトルの底をカットしたもので代用可能。

作戦概要：交換作業は4ステップで完了



難易度: ★★★☆☆ (中級)

想定作業時間: 2~3時間 (交換作業1時間、エア抜きに1時間以上)

ステップ1-2：冷却水の排出と分解

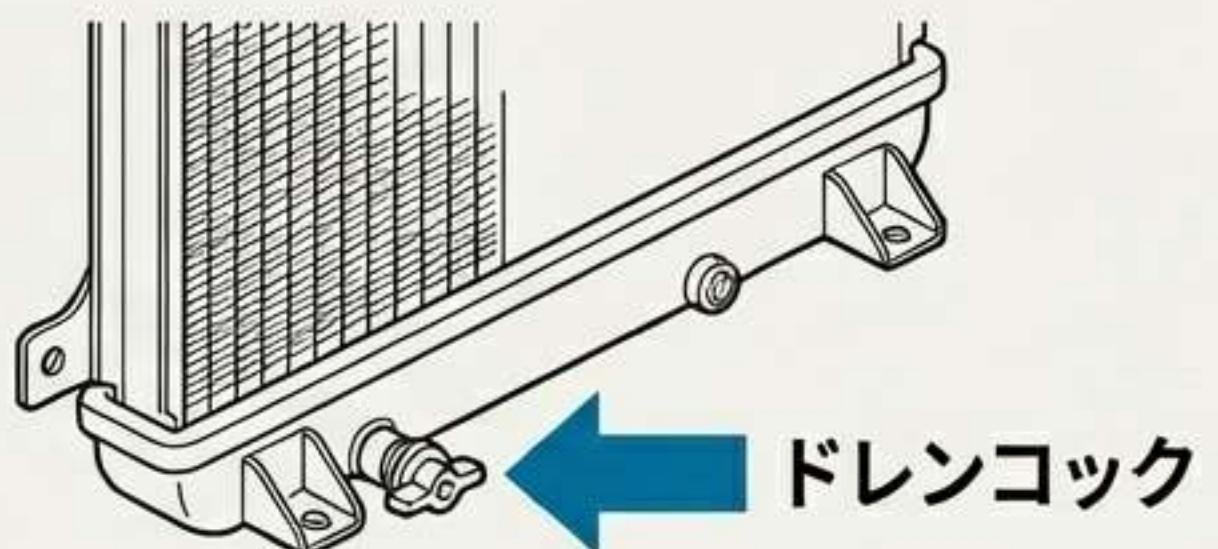
Step 1：排出（Draining）

最重要：必ずエンジンが完全に冷えていることを確認。
熱い時に開けると熱湯が噴出し大火傷の危険があります。

ラジエータ下部のドレンコックを緩め、バケツで
冷却水を受ける。

Step 2：分解（Disassembly）

フロントグリルを外して作業スペースを確保。
アッパー ホース（上）とロア ホース（下）のバンド
を緩めて引き抜く。

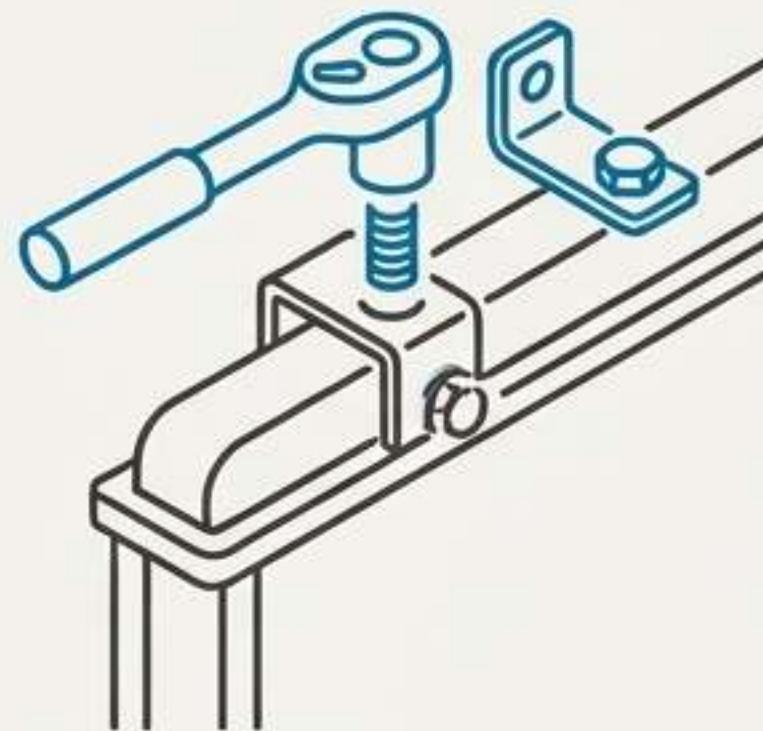


【AT車・最重要注意点】

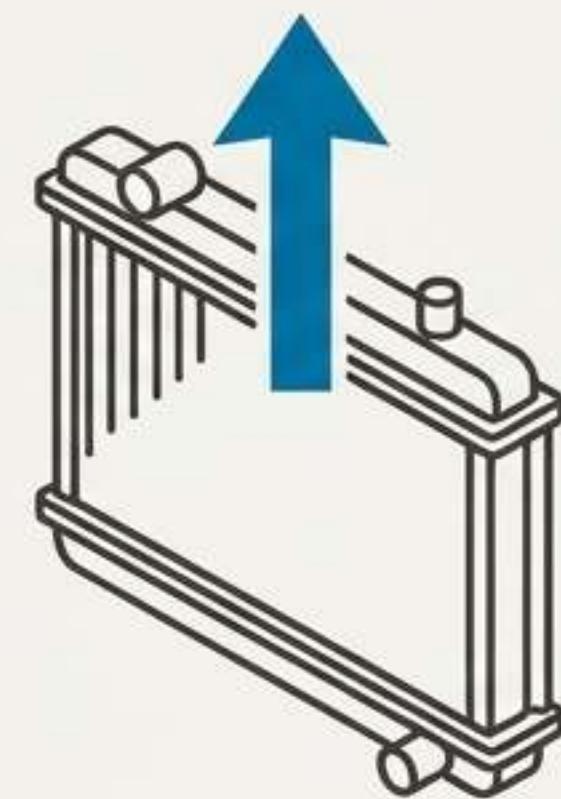
ラジエータ下部にあるATFクーラー ホース（細い2本）を外す
と、ATオイルが漏れ出します。
外したら即座にボルト等で栓をしてください。

オイル漏れはATミッションの
重大な故障に直結します。

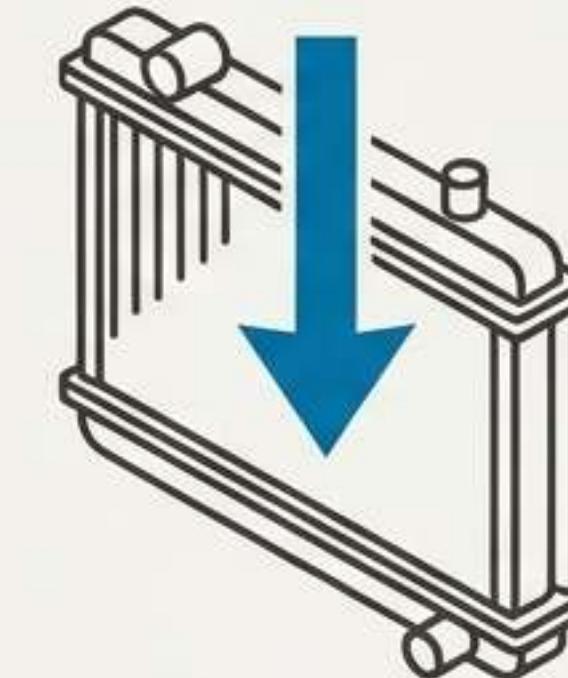
ステップ3：ラジエーター本体の交換



1. ラジエーター上部を固定しているステー（金具）を12mmレンチで外す。



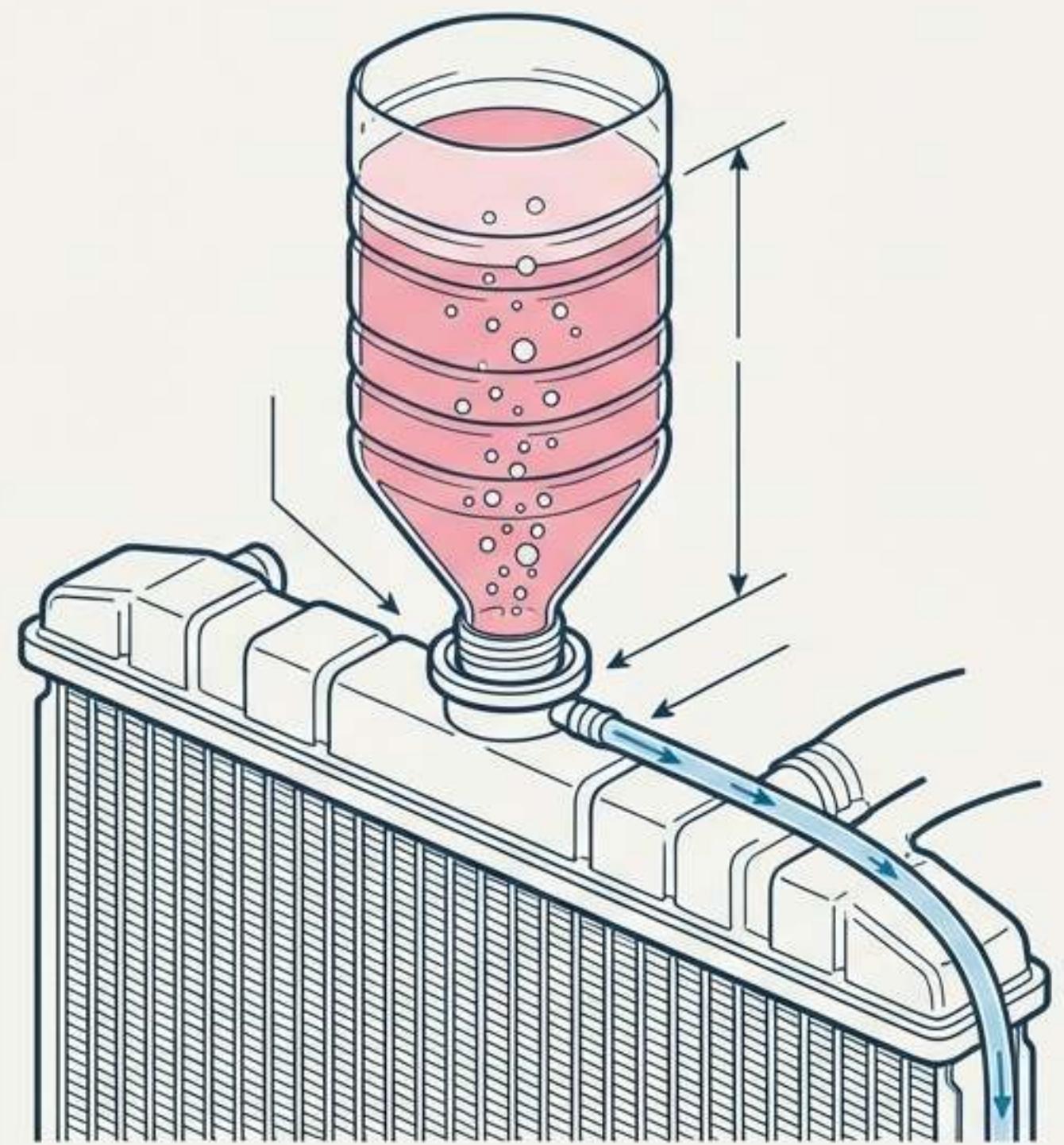
2. 古いラジエーター本体を、周辺部品に注意しながら真上に引き抜く。



3. 新しい本体を設置し、逆の手順でホース、ステー、シユラウドを元に戻す。

エンジン側のファンシユラウド（黒い樹脂カバー）の固定ボルトを緩め、作業の邪魔にならないようにずらしておきます。

最難関：ハイエース特有「エア抜き」の攻略法



Context: ハイエースはリアヒーターまでの配管が長く、冷却経路に空気が残りやすい。エア抜きが不完全だとオーバーヒートの原因になります。

1. ラジエーターキャップの口に、ペットボトル等で作ったファンネルをしっかりと差し込む。
2. 新しい冷却水（LLC）をファンネルからみなみと注ぐ。
3. エンジンを始動し、ヒーターを前後とも最高温度・最大風量（MAX HOT）に設定する。
4. エンジン回転中、ポコポコと泡が出て水位が下がるので、ひたすら冷却水を継ぎ足す。泡が出なくなるまで30分～1時間、根気よく続ける。



Pro-Tip: 車のフロント側をジャッキアップして坂道のような傾斜をつけると、ラジエーターキャップの位置が最高点になり、空気がさらに抜けやすくなる！

ミッション完了：あなたの成果

¥53,000



節約金額

プロ依頼 ¥78,000 - DIY費用 ¥25,000



獲得スキル

冷却システムの構造理解と、自分の手で愛車を整備する技術。



愛車の信頼性

オーバーヒートの不安を根本から解消し、安心して長く乗れる。

次のステップへ：盤石な冷却システムを築く

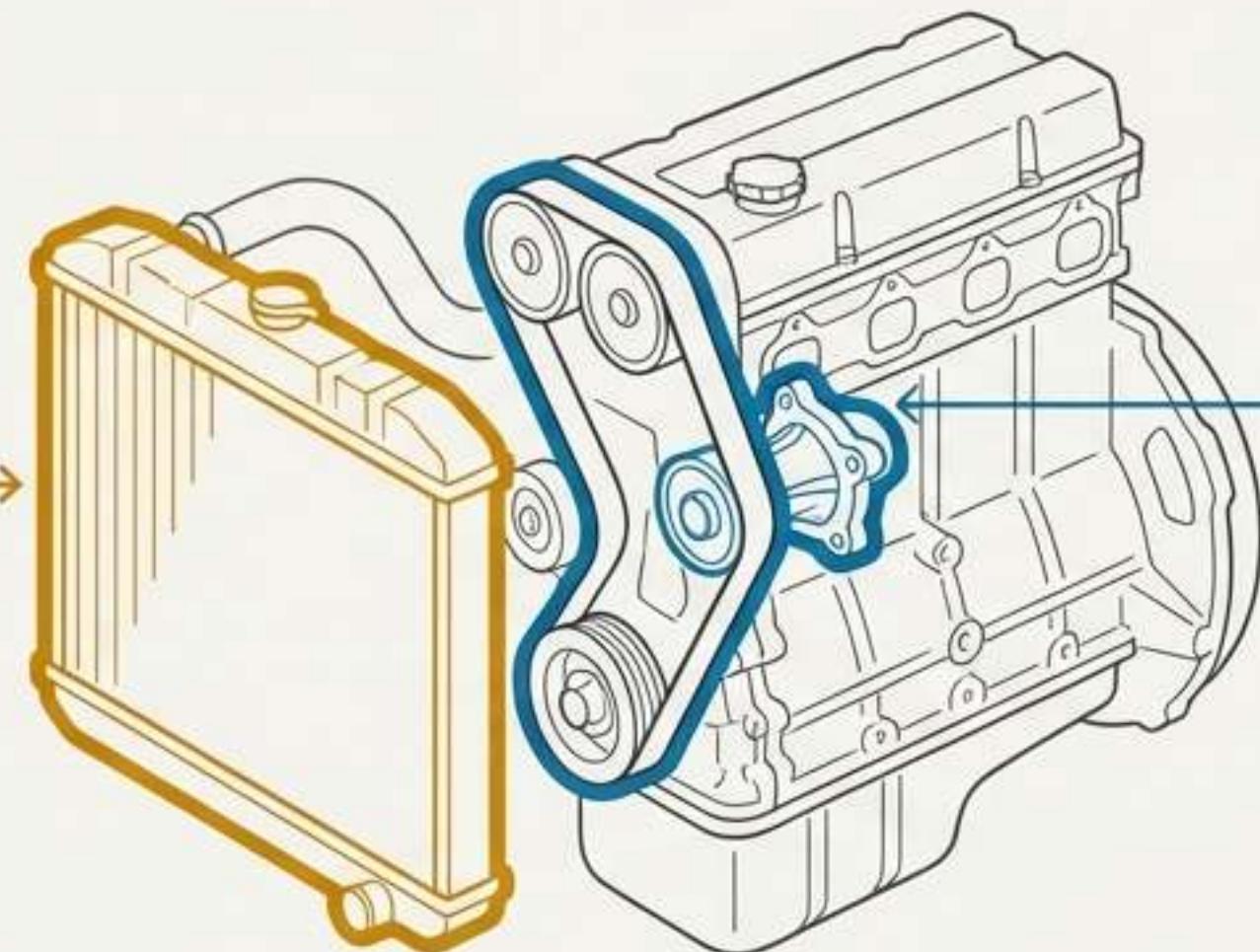
エンジンの冷却系は、2つの「要（かなめ）」で守られています。
この2つを整備すれば、冷却系のトラブルはほぼ心配無用になります。



1. ラジエーター

エンジン全体の熱を冷ます。

(今回、あなたの手で完了！)



2. ウォーターポンプ & タイミングベルト

エンジン内部で冷却水を循環させる心臓部。

長く乗り続けるための、最も重要なメンテナンスです。



愛車を、自分の手で守り抜く。

- ✓ 安全第一：作業は必ずエンジンが冷えている時に。火傷は絶対に避ける。
- ✓ ATFホース：AT車の場合、このホースの接続だけはダブルチェックを。緩みや接続忘れは致命傷に。
- ✓ エア抜き：「泡が消えるまで」徹底的に。ここで手を抜かないことが成功の全て。

あなたの挑戦を、心から応援しています。